

株式会社ジェイコム湘南・神奈川

相模原・大和局およびかながわセントラル局 2局合同

2021年度 放送番組審議会 議事録

2021年度の放送番組審議会は、2022年3月15日(火)に開催された。

(相模原・大和局、かながわセントラル局、オンラインでのリモート参加者含む)

＜放送番組審議会委員＞ (五十音順)

— ご出席 —

相模原・大和局

飯島 泰裕 様 佐藤 暁 様 武内 英雄 様

かながわセントラル局

綱代 宗四郎 様 伊藤 龍紀 様 鈴木 定公 様 鳴海 智 様

事業者側から、J:COM チャンネル(11ch)と J:COM テレビ(10ch)について報告があった。

【質疑応答・意見交換】(武内会長による進行)

委員 インターネットの普及によって、様々な映像配信が増えている。主体者が発信するという点では、YouTube もそれなりに視聴者を集めている。賛成意見と反対意見を取り入れるなど、多様化を踏まえて、様々な意見を比較しながら放送ができるのが放送局ならではの放送である。JCOM ならではの、放送局ならではの番組の作り方をしたい。また大学関係の番組がないので、ぜひ大学関係も取り上げてほしい。

事業者 J:COM の番組では事件や事故を取り上げておらず、生活に密着した話題を取り上げている。その中で取材や番組作りの中に、多様化や比較化を時代に合わせて取り入れていくことは重要であると考えている。大学に関しても番組で取り上げていきたい。オンラインの学祭を一緒にやった事例があり、実開催だと数千人のところ、オンライン開催では数万人のアクセスがあったという好事例もある。こういった取り組みももっと進めていきたい。

委員 今年はさがみはら元旦マラソン大会をギオンスタジアムで開催できた。通常の半数程度の参加者であったが、走り終わった後の笑顔などは印象に残っていて来年も実施

したい。元旦というとニューイヤーマラソン、駅伝などがあるが、県下で元旦にマラソンをやっている所は数少ないので、地元の大大会を番組で取り上げていただけるとより地元で元気が出ると思う。これから活躍するであろう若いアスリートを小さいころから取材して、大きくなってから放送などができると、地域に根差した放送ができるのではないかと思う。

事業者 元旦マラソンに関しては、様々な地域の様々な人が参加されている様子を放送するのはケーブルテレビの原点ともいえるので、ぜひ取り上げていきたい。神奈川県下のケーブルテレビ各社が参画するかながわCATV情熱プロジェクトで地元のスポート大会の特別番組を放送している。コロナ禍で思うように取材ができていないが、また動きだしたら情熱プロジェクトの中で若い有望なアスリートも取り上げていきたい。

委員 横浜市瀬谷区と災害時の協定を締結（正式名称：災害時における地域支援の協力および放送等に関する協定）したとお伺いしたが、災害発生時は早く正確な情報が必要となるので、ぜひよろしくお願ひしたい。地域イベントに関しては、参加している人も関係者も取り上げただけることが嬉しいと思うので、ぜひ今後も番組で取り上げていただきたい。

事業者 神奈川県から指定地方公共機関の指定をされており、国・県・各市区町村との情報連携を密にする体制になっている。東日本大震災や水害の時は、災害情報の発信に切り替えて対応を行い、地域でしか得られない情報を取り上げた。今後も東日本大震災の時のように防災情報を取り上げていきたい。災害時の地域支援協力の協定締結に近年取り組んでいる。防災情報を流すのは当たり前であり、加えて社用車で物品運搬など物的支援、市への情報提供や緊急車両の登録などを実施している。

委員 えびな商工フェアのオンライン配信をJ:COMの協力を得て実施することができた。コロナ禍では、自宅ですべてテレビを視聴している人が多くなり、特に高齢者は巣ごもり状態が続いている。高齢者向けの番組があればJ:COMのファン層が増えるのではないか。情報の信用力を高めていきながら、番組制作を行っていただきたい。コロナの状況が続く中、情報伝達は非常に重要である。

事業者 高齢者に対してはオンライン診療を開始している。

委員 J:COMとテレビ神奈川の違いが良く分からない。地域の細かい情報が見られることは分かるが、テレビ神奈川は無料で視聴できるのに、J:COMが有料なのはなぜなのか。J:COMが学校のなかへ入っていく、地域と繋がるということに関して、もっと保護者と地域の目を子供たちへ向けていく必要があると思う。新番組『ジモトに乾杯！居酒屋 石ちゃん』の東京版『ジモトに乾杯！居酒屋 秀ちゃん』を見たが、地域の中で苦労された方の話が堅苦しくない形で聞くことができるのが良かった。

事業者 J:COMではまだキー局のようなテレビ番組の作り方が主となっている。YouTubeとの連携や放送のIP化、アプリで過去の情報が見られるなど細かいところの情報発信で差別化していきたい。学校との連携に関して、避難所として学校を使う際に災害情報を流せるような体制づくりをしていく必要がある。居酒屋石ちゃんは他の地域の人が集まって、各地域の取り組みの話をする事で触発があり、そこから何か生まれることがある点、他の同様の番組との違いである。

委員 各行政の給付金のお知らせなど、きめ細かい情報を発信いただけるのはありがたい。コロナでイベントが中止になる前は神奈川大和阿波おどりの特別番組を放送していたが、今後も地元の声を聞きながら番組を放送していただきたい。

事業者 災害時の地域協力支援の協定締結を進めている。災害情報や安全安心情報を流すだけでなく、局舎にある多くの車やバイクなどを活用していくなど、情報以外の物的支援を実施する。避難所で何が起きているかを行政地域の人々に伝えたりするために、車両の緊急車両登録も済ませている。

事業者 委員の皆さまからのご意見、活発な審議ありがとうございました。今後の番組制作に役立てていきたいと思っております。

以上